

# 「つながる」をキーワードに予防・支援を策定。 学びの多様化学校の経験を市内に広める

## 東京都 八王子市教育委員会

不登校特例校（現・学びの多様化学校）「八王子市立高尾山学園」を設置するなど、全国に先駆けて不登校施策に力を入れてきた東京都八王子市。文部科学省「COCOLOプラン」が市の不登校施策と同じ方向性であったことを踏まえ、2023年6月、不登校の総合対策「つながるプラン」を策定した。どのような状況の児童生徒でも他者や社会とのつながりが途切れることがないように、未然防止、早期発見・支援、個別支援、社会的自立支援を柱に多様な手立てを講じている。

### 自治体概要

目指す教育の姿に「はちおうじっ子の『生きる力』の育成」「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」「いくつになってもともに学び続けられる生涯学習環境の充実」を掲げる。隣接した小・中学校で小中一貫教育グループを形成し、9年間を見通した教育活動を展開。市内には21大学のキャンパスがある。

人口 約56万人 面積 186.38km<sup>2</sup>  
 市立学校数 小学校 69校、中学校 37校、義務教育学校 1校  
 児童生徒数 小学校 2万5,167人、中学校 1万2,796人 教員数 2,533人  
 スクールカウンセラー 全107校に配置 スクールソーシャルワーカー 15人  
 学びの多様化学校 1校 校内教育支援センター 26か所  
 教育支援センター（適応指導教室）3か所

### すべての子どもに 社会とつながる力を育む

八王子市教育委員会（以下、市教委）は、2004年当時の市長の教育への思いから、構造改革特区制度を利用して不登校児童生徒の実態に応じた教育課程を編成する「八王子市立高尾山学園」（以下、高尾山学園）を設置。不登校特例校の先駆けとなる同学園を中心に、不登校施策を手厚く行ってきた。しかし、同市の不登校の小・中学生数は増加傾向にあり、2022年度は1,832人で、うち約3割の552人が専門的な指導・相談等を受けていなかった\*1。

そうした状況を踏まえて2023年6月、市教委は市立小・中・義務教育学校における不登校の総合対策「つながるプラン」を策定した。「つながる」をキーワードに、既存と新規の施策を4つの柱でまとめた（図1）。2027年度までの達成目標に、「専門的な相談・指導等を受けていない不登校児童生徒数を0にすること」「中学校卒業後に希望進路を持つ生徒の

進路未決定者数を0にすること」の2つを掲げた。安間英潮<sup>やすま ひでしお</sup>教育長は、同プランのねらいを次のように語る。

「義務教育の責務は、すべての子どもに、中学校卒業後に社会的に自立して生きていく力を育むことだと考えています。具体的には、教科学力を基盤とした生活に必要な知識・技能と、他者や社会と折り合いをつけながらつながる力の育成です。自己有用感や自己肯定感を持って前に進めるよう、たとえ学校に通わなくても、他者や社会とつながる多様な場をつくることを重視しています」

### 教員研修は高尾山学園で実施。 学校外の居場所づくりも強化

4つの柱について見ていく。まず「学びがつながる」は、魅力ある学校づくりに向けて授業や学校風土の改善を図るもので、不登校の未然防止を目指す施策だ。同プランの立案に携わった学校教育部の山崎晃司指導主事は、その考え方を次のように語る。「不登校を防ぐという発想ではな



教育長

安間英潮

やすま・ひでしお

東京都公立中学校教員、八王子市教育委員会、東京都教育委員会等を経て、2016年度から現職。



学校教育部

統括指導主事（企画調整担当）

狩野貴紀

かのう・たかのり

2023年度から現職。



学校教育部教育指導課  
指導主事

山崎晃司

やまざき・こうじ

2020年度から現職。



学校教育部教育指導課  
登校支援担当  
課長補佐兼主査

長田智久

おさだ・ともひさ

2017年度から現職。

く、子どもが学びたいと思う授業づくり、行きたいと思う学校づくりが重要だと考えています。以前は小学5年生と中学2年生のみで実施して

\*1 文部科学省「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」による。

いた学級づくりのためのアンケート調査は、2024年度から小学6年生～中学3年生の各学年で実施し、より丁寧に学校風土を把握して学校・学級づくりに生かせるようにしました」

加えて、相談できる大人がいるかどうかを、全児童生徒に年3回、アンケート調査で聞いている。

「困った時に話せる大人がいれば、早期対応が可能です。『いない』と回答する子どもがいたら、先生自身が相談できる大人になってくださいと伝えています」(安間教育長)

「支援がつながる」は早期発見・支援、「社会とつながる」は個別支援に対応するもので、スクールソーシャルワーカー(以下、SSW)・心理相談員などの増員、別室指導・教育支援センターの拡充などを図る。

その2つの柱において重要な役割を担うのが、高尾山学園だ(P.11実践事例)。20年間にわたって様々な不登校児童生徒を支援してきた経験を市内全校と共有するため、2024年度から、各学校の不登校担当教員を「登校支援コーディネーター」として役割を明確にし、年2回の集合研修に加え高尾山学園での1日実地研修を行う。

同学園には市教委の登校支援室を配置し、不登校支援の拠点としている。市内3か所ある適応指導教室\*2のうち同学園への転入学を希望する児童生徒を対象とした適応指導教室も同学園内に設置。学校教育部登校支援担当の長田<sup>おさだ</sup>智久課長補佐は、その利点を語る。

「登校支援室、適応指導教室、高尾山学園が同じ場所にあることで、SSWが各学校を訪問して得た情報の共有や相互の相談もしやすく、適切な支援環境です」

市の公的機関を活用した不登校児童生徒の居場所づくりにも取り組む。2023年2月から市内4か所の給食セ

## 図1 市立小・中・義務教育学校における不登校の総合対策「つながるプラン」(2023～2027年度)概要

### 達成目標1

学校内外での専門的な相談・指導等を受けていない不登校児童生徒数を「0」にする  
2022年度時点 552人 / 達成目標: 2023年度 400人、2024年度 300人、2025年度 200人、2026年度 100人、2027年度 0人

### 達成目標2

中学校卒業後に希望進路を持つ生徒の進路未決定者数を「0」にする  
2022年度時点 3人 / 達成目標: 2023年度以降 0人

◎は既存の施策、●は2023年度以降の新規施策。

## 1 学びがつながる ～魅力ある学校づくり～ 未然防止

- ◎授業改善の推進、ICTを活用した教育の充実。
- 義務教育修了段階で全生徒が身につける知識・技能「はちおうじっ子ミニマム」\*3の達成。
- ◎各小中一貫教育グループに学力定着プロジェクトチームを設置。義務教育修了段階の学力を保障。
- ◎すべての子どもに相談できる大人を確保(年3回、全市立学校で調査して状況を把握)。
- ◎楽しい学校生活を送るためのアンケート調査(2024年度からは小6～中3で実施)やスクールカウンセラーによる全員面談を実施。個別支援や学級・学校集団づくりに生かす。
- 不登校対応教員加配等による別室指導の事例を、登校支援コーディネーター研修で共有。
- 校内別室指導支援員(東京都事業)の配置による効果検証を、別室指導に反映。

## 2 支援がつながる ～支援ニーズの早期把握と組織的対応～ 早期発見・支援

- 登校支援コーディネーターを各学校の組織的対応の核に位置づけ。
- ◎不登校児童生徒の出欠や支援の状況等を随時記録する「個票システム」の機能向上。
- ◎「学校と家庭の連携支援員」と連携し、保護者の相談・支援体制を充実。
- スクールソーシャルワーカーを増員。学校担当のスクールソーシャルワーカーと各学校の登校支援コーディネーターとの定期的な連携で、学校内外の専門機関に素早く接続。
- 心理相談員を増員、配置を工夫。
- ◎東京都の不登校研修ミニキット等を活用した校内研修、登校支援コーディネーター研修(年2回)を実施。

## 3 社会とつながる ～多様な教育機会・居場所の確保～ 個別支援

- ◎学びの多様な学校・高尾山学園における児童生徒に対する適応や転入学の支援の充実。
- 登校支援コーディネーター研修において高尾山学園の取り組みを共有。
- 不登校対応非常勤教員を加配し、小中一貫教育グループごとの教育支援センター設置に向けたモデル事業を実施。
- ◎適応指導教室の成果と課題を明らかにし、登校支援のネットワークの再構築に反映。
- バーチャル・ラーニング・プラットフォーム(東京都事業)を活用。
- 児童生徒とオンラインでつながり、適応指導教室への再チャレンジの機会を提供。
- 第五中学校夜間学級における不登校生徒の受け入れに向けて、中学校在籍時に夜間学級に体験入級できる仕組みの整備、学齢生徒の受け入れに向けた調査研究を推進。
- 市立の給食センター、図書館、児童館、学童保育所等の公的機関と連携し、不登校児童生徒の居場所や、社会とのつながりの機会を創出。
- 「八王子市立学校とフリースクール等連絡協議会」を年2回実施。
- 「出席の取扱いに関するガイドライン」を策定。

## 4 未来につながる ～社会的自立を目指した中・長期的支援～ 社会的自立支援

- ◎キャリア教育の視点を踏まえた進路指導をテーマとした進路指導主任研修を開催。
- ◎義務教育9年間を見通したキャリア教育の計画及び実践を推進。
- 地域企業等と連携し、不登校生徒を対象とした職場体験を実施。
- ◎各学校で不登校生徒の進路相談の対応を工夫。
- 不登校児童生徒の保護者対象の「保護者サロン」(年4回)を実施。
- ◎中学校卒業後に進路未決定となる可能性のある生徒を早期に把握し、進路決定を支援。
- ◎中学校卒業後に進路未決定の生徒に、在籍校が進路や相談窓口などの情報を提供。

※八王子市教育委員会の提供資料を基に編集部で作成。

ンターを、子どもが訪問できるようにした。子どもはそこで給食を食べたり、調理を手伝ったりする。ある

不登校生徒は、食に関心を持つようになり、食に関する職業に就くという目標を持ち高校に進学した。そう

\*2 八王子市では、適応指導教室の名称を現在そのまま使用している。 \*3 八王子市は、義務教育修了段階において、すべての生徒が社会生活を営む上で最低限身につけるべき基礎的・基本的な知識・技能として「はちおうじっ子ミニマム」を策定した。

した成果を受け、2024年度からは、図書館や児童館、学童保育所などと連携し、子どもの居場所づくりを図る。

「未来につながる」は、社会的自立支援に対応する施策だ。不登校生徒に個別に進路指導を行うほか、不登校児童生徒の保護者が語り合う**保護者サロン**を年4回実施するなど、保護者の不安や悩みにも寄り添う。また、不登校生徒が参加しやすいよう、不登校生徒対象の職場体験も地域と連携して実施する。

「社会とつながっていない子どもを0にするという強い決意で、様々な手を尽くしています」(山崎指導主事)

## 不登校児童生徒への理解が少しずつ進む

学校教育部の狩野貴紀<sup>かのうたかのり</sup>統括指導主事は、学校運営協議会やPTA連合会などで同プランを説明する中で、地域の不登校児童生徒への理解が進んでいることを感じている。

「学校運営協議会等を通じて、地域の子どもは地域で育てていこうという意識が醸成されており、地域住民から不登校児童生徒への声かけを申し出てくれるケースもあります。それが、ひいては子どもが社会につながる機会が増えることになります。

学校内で課題を抱え込まずに地域と連携しようといった、学校側の意識の変化も感じています」

2023年度は、つながるプランの達成目標1と達成目標2をとともに達成した。今後は各施策の効果検証と改善を図っていく。

安間教育長は、不登校施策には教員の働き方改革が重要になると語る。

「業務の精選などで教員の多忙化を解消し、子どもと向き合う時間を増やすことが、何よりの不登校の予防になると考えます。つながるプランに加え、働き方改革も実効性を持って推進していきます」

### 実践事例

## 登校率約73%、高校在籍率85%超を支える教育・福祉・医療の面からの手厚い子ども支援 学びの多様化学校 八王子市立高尾山学園

### 楽しく学び、信頼できる人と出会える学校に

高尾山学園は、不登校児童生徒の生きることへの自信の醸成と社会的自立を目的に設置された。小学4年生～中学3年生が在籍する。転入学希望者は同じ校舎内の適応指導教室に入り、同学園の学びを体験してから転入する(図2)。児童生徒数は例年、年度当初は60人ほどだが、年度末には100人以上になる。在籍者数の上限は設けていない。

授業は学習指導要領に定められた内容を基本とし、学年ごとに時間割はあるが、授業時数は年間760時間程度に軽減。授業には担当教員以外にも教員や指導補助員がつき、児童生徒個々に

応じた指導が行われている。数学や英語では学習プリントが細かくレベル別に用意され、自分のペースで学べる。授業中につらくなったら、プレイルームや保健室などで過ごすことも可能だ。教員26人のほかに、指導補助員や特別支援サポーターなどの31人が常駐。SSWや児童精神科医などとも連携し、教育・福祉・医療の面から子どもの生きづらさを支える。そうした手厚い人材配置を支える市費予算は、2023年度で約6,200万円だった。

「2023年度の登校率は約73%で、卒業後はチャレンジスクール<sup>\*4</sup>や通信制高校、全日制高校などに97.5%が進



校長

黒沢 正明

くろさわ まさあき

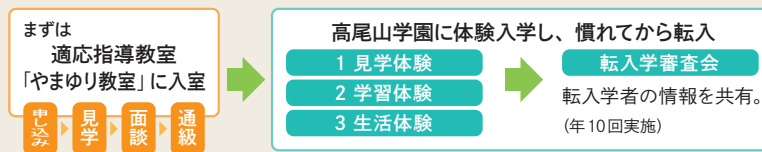
企業勤務を経て、2013年4月から現職。文部科学省「学びの多様化学校マイスター」も務める。

### ◎学校概要

児童生徒数 小学部10人、中学部66人  
学級数 5学級(ほかに特別支援教室1)  
教員数 26人 職員数 31人<sup>\*5</sup>

学します。追跡調査では高校在籍率は85%超で、生徒会長を務める卒業生もいます。そうした状況とともに、不登校のままでは社会との接点がなくなり、成人後、無職か納税者になるかでは社会的にも大きな差が生じるといった話を議会などで説明し、本校の教育活動への理解を得ています」(黒沢正明校長)

図2 高尾山学園への転入学の流れ



※八王子市立高尾山学園の提供資料を基に編集部で作成。

Web VIEWnext ONLINE

取り組みの詳細をウェブサイトで紹介しています。右記の2次元コードからアクセスしてください。



\*4 東京都が設置。小・中学校時代に不登校経験を持つ生徒や、長期欠席等が原因で高校を中途退学した者等を主に受け入れる、総合学科・3部制(午前部・午後部・夜間部)の高校。他部履修により3年間の卒業も可能とする。 \*5 職員は、事務職員や用務主事、研究主事、特別支援教室専門員、学校司書、スクールカウンセラー、指導補助員、特別支援サポーター、プレイルーム職員等。